

BOOK

ブック

常見氏は、先行研究や関連データに基づき、次のように提言する。「自由競争」や「公平・平等」の幻想により、学生が「就活うつ」や新卒無業者に追い込まれている。現実には、高卒・大卒などの「タテの学歴」に加え、学校名などの「ヨコの学歴」による「学歴フィルター」まで存在するのに。さらに、この卒業生は良くないなどの、個人差を無視したラベリングも行われる。これらは

努力しても報われない競争である。これに対して、ほとんどの学生が登録するマイナビ、リクナビなどの就職情報会社は、自由かつ大量の応募による個人間の競争を実現する。これらは努力して報われる可能性のある競争ではあるが、熾烈化して学生も企業も疲弊している。

このような実態のなか、常見

NHK BOOKS
1227

「就活」と日本社会

平等幻想を超えて

著者 常見陽平

常見陽平 著

1242円 NHKブックス

☎03-3464-7311

「就活」と日本社会

平等幻想を超えて

氏は、スカウト型の求人サイトや、カウンセリングによって採用可能性の高い企業を学生に紹介する人材ビジネス企業に期待を寄せる。その文脈から、「競争が平等ではないことに気づき、弱者は弱者なりの生存戦略を考えよう」と提唱する。そして、「偽装された自由や平等は暴力であり、民衆を希望の奴隷にする」と締めくくる。

評者は考える。若者に希望を与えない教育など存立しえない。しかし、不平等の現実のなかで、多くの若者が苦しんでいる。われわれは有名企業への就職願望に代表されるような「希望」の質自体を考え直す必要があるのではないか。小学校でも起業家教育が始まった。また、職業、家庭、地域、社会生活という視野の広がりがなくて、生涯の充実はない。その基礎づくりこそ、学歴社会から生涯学習社会への転換期における学校教育の役割にほかならない。

(聖徳大学教授・西村美東士)